

御田植祭を斎行



5月30日、新ひだか町で天皇陛下に献上する米の作付けに合わせた「御田植祭」が執り行われました。

装束の早乙女たちが神職の祈りを受け昔ながらの手植えて苗を丁寧に植え進め、地域の誇りでもある献上米の豊作を願いました。

御田植祭は献上米の生産に先立ち、五穀豊穡と地域の安寧を祈願する伝統行事で、静内地区での開催は昭和52年以来、約50年振りとなります。この日は神職による厳かな神事が行われ、関係者や地域住民が見守る中、献上米の田植えが始まりました。献上米は、品質や栽培方法に厳しい基準が設けられており、早乙女からは「献上米の田植えに参加できて光栄です。心を込めて植えました」と話されました。

耕作長を務めた西村組合長は「この度、献穀者に指名されたことは、大変名誉なことと同時に、この地域にとっては、これからの米作りの励みになる非常に意味深いことでもあります。今後、収穫まで大変な苦労があると思いますが、この名誉と誇りを思い、無事に秋を迎え、豊穡されることを願っております」と挨拶がありました。

耕作者で献穀実施者の帰山諭さんは「今回、耕作者という多大な大役を仰せつかり、名誉と責任でいっぱいです。この責任を胸に、今後、この献上米の管理に全力を尽くし、無事、秋の収穫を迎えるよう努力し、尽力をするだけでございます」と語りました。

秋には稲の穂を刈り取り、神に捧げる儀式である抜穂祭が斎行されます。



7月16日、撰果場でミニトマト出荷規格目合わせ検討を開催しました。当日に撰果を行った実際の色見用サンプルと収穫色見表及び撰果マニュアルの内容に沿って目合わせを実施しました。

「太陽の瞳」の品質・ブランド向上の一環として産地一丸となって取り組んでいきます。



ミニトマト 出荷規格目合わせ 検討会 開催

